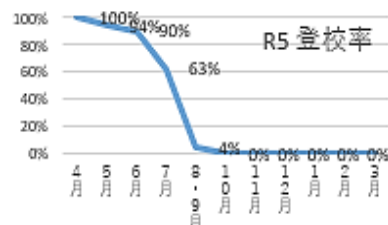


不登校生徒を対象とした取組や関係機関との連携による 状況の改善

不登校生徒の状況

対象生徒は、第1学年1学期の後半から学校に登校できない状況が続き、1年生での登校は1日もなかった。当該生徒・保護者に対する支援を校内で検討し、保護者と外部の相談機関をつなげるため、3学期から月1回、担任、保護者、SSWの面談を行った。



具体的な取組

○SSWの積極的な活用

どこにもつながっていない生徒をゼロにすることを目的とし、家庭訪問や保護者との会議、支援部会への参加など、積極的にSSWを活用した。当該生徒や保護者との関係構築の一助となった。

○校内別室環境の整理

生徒が学校に来たいと思ったタイミングで、登校できるように、校内別室を開設した。この部屋では、教員が必ず1人つき、対応をしている。生徒は学習や読書など、自分で選んだ内容に取り組めるようにしている。また、この別室は急に登校不安になった生徒も利用することができるため、長期欠席の予防になっている。



○生徒と学校のつながりを継続できる行事の実施

昨年度に引き続き、不登校対策校外学習を実施した。当該生徒はこの行事に参加し、学校とのつながりを継続した。学校になかなか登校できない生徒でも、参加しやすい行事となって、生徒の思い出づくりや学校とのつながりの継続の一助となっている。

○不登校対策保護者会による保護者のサポート

昨年度、本生徒の保護者が参加した不登校対策保護者会を今年度も実施した。保護者同士での悩みの共有や、講師の話を聞くことにより、保護者のサポートとして有意義な会となった。

成果

当該生徒は、SSWの積極的な活用や別室環境の整備などの成果もあり、少しずつ登校できる状況になってきた。引き続き、生徒一人一人に寄り添い対応できる体制を整えていく。



課題

不登校の状況改善に向けては、丁寧な対応が必要不可欠である。加配教員終了後の校内対応策の検討が課題である。また、デジタル機器を活用した対策の推進も課題として残った。